



△ 施設長を囲んで記念撮影

一月十五日は成人の日、中里の家でも平成二年の成人式・新年会が盛大に催されました。今年新しく成人の仲間入りをしたのは菊池伸幸君・長谷川弘美さん・豊見山一志君・茅野正一君の四名でした。控室で着替えをすませた四人は新成人の貫禄充分。背広にネクタイをきりつとした男の子たちは顔つきも少し大人っぽく、とてもりりしく見えました。でもやっぱり成人式は女の子、ステキな着物にお化粧もバッチリきめた弘美さん、ほんの少しお色気もできたとようです。中里の家の女子職

行事係 香田道丸

新成人・おめでとろ!!



中里の家だより
第 15 号

発行年月日
平成2年2月1日

発行
社会福祉法人
安房広域福祉会

〒294-02
館山市中里288-1
0470 (28) 2022

員の中にもきれいな？人は何人かいますが、この日の弘美さんはだれにも負けないくらいすてきでした。それぞれが保護者や施設長との記念写真を撮り終ると、いよいよ成人式の開式です。ちょっとすまして入場した四人も舞台上上がって紹介をうけると恥ずかしそうにモジモジしていました。成人式が終ると、次はテーブルに御馳走を並べて新年会の始まりです。鈴木孝子さんの音頭で乾杯。初めのうちはみなさん料理や飲物に舌つづみを打っていました。少しアルコールもまわってきたところで今度はアトラクション。お母さん方の振り付きの合唱は会場を爆笑の渦につつま込み、まさに熟女のパワーで圧倒していました。

園生代表は鈴木正則君と吉村晶子さん。正則君が打つ太鼓に合わせた吉村さんの踊りは、お正月にピッタリの本当におめでたいものでした。それから後は無礼講。急きょ会場はカラオケ大会となりまして、みなさん自慢ののを披露してくれました。最後は森井千代子さんの三本締め、楽しい二時間もおひらきとなりました。

新成人の皆さん本当におめでとろございました。



祝成人式新年会

△ 盛会だった新年会

新成人紹介



一面で紹介しましたように、今年、中里の家では、園生四名、職員二名（指導員・能重学、事務・鈴木晃）が晴れて大人の仲間入りをしました。それではこれから、20才をむかえた園生四人のココロ意気をレポートしてみましよう。

○長谷川弘美さん

新成人の紅一点、弘美さんは、昭和45年1月12日生まれ、歌のとても上手な20才です。今は成人式に着物を着る事をとても楽しみにしています。まだ時々、甘えんぼさんになっちゃう彼女、これからはちょっとガマンして、大人の女を目指して欲しゅうゴザイマス。でも、その人なつこい笑顔と明るさは、ずっと忘れずに：ねっ！ そうそう、ちなみに彼女、20才すぎてもビールはイタダケないワ：という事なんで、そこそこヨロシク！

○豊見山一志くん

昭和45年3月6日生まれ。もうじき20才、いよいよ大人の仲間入りですね、おめでとう。沖縄生まれの一志君は、浅黒く日焼けした肌がとても似合う中里の家一番のハンサムボーイです。一志君の日常生活三場面を紹介しますと、「元氣よく走る姿」「大盛ご飯を頬張る姿」「いたずらをして叱られる姿」です。これからも健康に注意して元氣よく、「偶には少々いたずらもかまいません」楽しく過ごしてゆきましよう。

○茅野正一くん

昭和45年3月29日生まれ。成人おめでとう。中里の家に入所した頃、体重100kgを優に超す大男の正一君。怖いくらい大きな軀に、とてもあどけない笑顔が印象的でした。今は体重70kg、とてもスマートになり成人式のスーツがとても似合うでしょう。これからはもう大人、あどけない笑顔から素敵な笑顔に変身できるようにしましやうね。

○菊池伸幸くん

伸幸くんは昭和44年10月21日生まれ。ただ今農園部の一員として、寒い中がんばって畑に出ています。ご機嫌などはニコニコして、デイズニールンドやマザー牧場へ行った話もしてくれます。そんな伸幸くんだけど、時々ココロが縮こまってシマウンだよネ。春の花が元気に開いてゆくように、アカルイ20才をすごしてほしい。ガンバ！ノブリン！

新年を迎えて

保護者会会長

三幣欣一

新年明けましておめでとうございます。

「中里の家」開設以来三回目の正月を迎えるわけですが、子供達

が「中里ファミリー」の一員として、のびのびと明るく過ごしている姿を見るにつけ、私共心から感謝している次第でございます。

今考えますと、入所当時は不安と淋しさで心にポツカリと穴のあったような生活であった数ヶ月が、全くうそのようでありませぬ。

施設長さんをはじめ職員の方々の温かい気配りに、あらためて厚くお礼を申し上げる次第でございます。

私事で恐縮ですが、なかには経験された方もおられるでしょう。このたび、病気をしたことのない妻の入院に際しましても、麻由子

のことは一切心配することなく、心おきなく静養に専念できましたことは、ひとえに「中里の家」のお蔭と妻共々有難くお礼の言葉もございません。

さて、昨年実施されました収穫祭の折、園生から出品されました数々の作品には一年間の努力と進歩がうかがわれ、先生方による毎日の積み重ねの指導による結果であり、大変頼もしく思いました。

又その折、保護者の手作りコーナーには、早急のことと言え色々出品の御協力を頂き有難うございました。お蔭様で行事を盛り上げることができました。

行事を重ねるごとに、人と人とのコミュニケーションにより心の和が広がることの重要性を痛感しております。

本年四月から増員が見込まれますが、保護者会としては、今迄の方向を持続してゆきたいと思っておりますので、尚一層の御協力をお願いいたします。

終りにのぞみ、本年も皆様方の益々の御多幸を心からお祈り申し上げます。

医務室

より

看護婦 古川 操

年が変わって、新しい一九九〇年代の幕開けです。お正月はあったかい御家庭で過ごされた園生の皆さん、一人ひとり晴ればれとした表情でスタートしました。が、数日後には突然の発熱。一人、二人と言っている内に、多い日には二十名程の通院。一日中体温チェックと、ふだんは冷蔵庫の中でゆっくりしているアイスノンが大活躍。体温上昇は認められるのに、症状は軽い。「やっぱり、インフルエンザ予防接種のおかげかしら」一週間後には症状も落ちつき、皆そろっての笑顔。ふと、三年前が頭に浮かんできます。症状の訴えが的確に出来ない、又つかみにくい事から頭を悩ませた日々。今では表情や仕



行事報告

運動会を終えて

行事係
加藤まゆみ

抜けるような秋空の下、去る十月一日に第三回中里の家運動会が行われました。一カ月間あまりの練習の成果

が十分発揮できたことと思います。軽快なリズムにのって、紅組の旗手の丸真理子さん、白組の旗手の坂本和代さんを先頭に、各組の選手がすがすがしい顔で入場してきました。三回目ともあって行進も堂々と、とても頼もしかったです。開会式では闘志に満ちた選手宣誓が行われ、競技前から一人一人闘志満々でした。



百米走で熱戦の火ぶたが切って落とされました。腕を大きく前後にふって一生懸命走りました。紅白玉入れでは、保護者の方々も童心に返って紅白のアーチを描いてくれました。グラウンド一ぱいに大きな輪をつくつての「みんなで5・5」、そして新しい編成での作業班紹介、園生がこの一年間の成果を披露しました。あっという間に午前の部が終了し、園生はグラウンド一ぱいに広げたお弁当を頬張って、午後の戦いにそなえています。

フラメンコの音楽に合わせて、赤と黒の情熱的な衣装をまとった応援団が入場してきました。闘牛士も現われ、白牛をいとも簡単にやっつけた身のこなしはとも見事でした。続いて白組の応援では、学生服に身を包んだ応援団の入場。学生服から一変して白のかわいいスカートに早がわり、天国と地獄の音楽に合わせて、とても刺激的(?)なダンスを見せてくれました。どちらの応援も工夫を凝らしたもので、会場はどっと笑いに溢れました。

た。プログラムも、綱引き・パン喰い競走と進み、保護者レースの「どっちにするの:」では、二人三脚で風船割りを行いました。足がもつれてなかなか進まず、おしとやかな人が多くて風船も言うことを聞かずで、苦戦したようでした。優勝の鍵を握る紅白リレーでは、みんな総立ちで応援しました。今年紅組が勝ちましたが、負けた白組も精一杯がんばりました。とても充実した運動会だったと思います。



収穫祭開かれる

行事係
戸倉悦子

去る十一月二十五日、園生一人一人の日頃の努力がたくさん詰め込まれた作品を並べての収穫祭が行われました。

今年も各作業班でつくりあげた作品の展示・販売を中心に、農園部でできた「さつまいも」を使ったの芋煮会、楽しかった行事の写真展示。それに加えて、全体活動の時間に行われた写生会での絵画作品や、クラブ活動時のお華クラ

ブでの生け花などの展示。そして保護者会での手づくり品コーナーと、内容も盛りだくさんでした。作品の完成や収穫の喜びを知るとともに、日頃の作業活動の成果を評価してもらうことにより、新たに作業意欲の増進を図ることを目的として始められた収穫祭も今年で三回目。地域や来賓、また養護学校など多くの皆さんとの交流の場でもあり、園生もこの日を心



待ちにしていたようで、皆大はりきり。準備も一生懸命でした。当日は「この日を楽しみにしていた」と期待を胸に来園して下さった方も多く、一つ一つの作品を熱心に見た後、「非常に立派な作品だ」と高い評価をいただきました。午前の部は作品の展示。立派な作品の数々を目の前にしての園生一人一人の誇らしげな顔がとても印象的でした。そして昼食。具がたっぷり入った「さつま汁」を食べながら、一生懸命に作業の様子を話している人もいましたね。

午後は作品の販売。積極的にPRをしたり、作品ができあがるまでの経過を熱心に説明したりする園生の姿も見られ、多くの皆さんとの交流が一層深められたように感じました。

物をつくりあげる喜びと、それが人に認められた時のうれしさ。そんな気持ちをごの収穫祭を通じてうけとめた園生も大勢いたよう

作業班紹介

あけまして 木工部です

木工部担当

井上一範

皆様あけましておめでとうございます。昨年中は何かと木工部をごひいきいただきまして誠にありがとうございました。我々木工部

も早いもので、結成三年目の春を迎える事ができ、心から慶んでいます。毎年、「今年こそは……」と思いつつ一年が過ぎていってしまいますが、今年はこちらがいます。世の中の役に立つような、すばらしい作品を必ず皆様にお目にかけてみせます……なうて、かた

で、作業時間が終わるとすぐに、その日の仕事の内容の報告をしに指導員室に飛び込んできたり、一つの作品が完成した時、目を輝かせて報告をしにくる姿が日に日に増えてきているように感じる今日この頃です。

何よりも「為せば成る」という言葉を実感させられた一日だったような気がします。

い挨拶はこのくらいにして、本来、明るさがモットーの木工部は何事にもめげず、右手にトンカチ、左手にノコギリ、足にはきちんと上ばきをはいて、頑張っていきたいと思えます。

それではここで、一年間一緒にやってきたメンバーを紹介してみましよう。毎朝マラソンで体力の向上を目指す中年の角刈頭領・三平常明さん、それを蔭で支えているというよりも逆に足をひっぱってしまい、そ



れが笑える幸雄さん。持続性なら一生でもヤスリで木を磨いてしまおうノンストップ・春治さん、それは逆に、作業が始まると同時に天井を見つめ、頭で八の字をえがく北田正明くん、「ヤル、ヤル、ガンバル、ガンバル」が口癖の、途中で手ぬきをする智章くん、最近オリジナルの小物作りで自主性の芽生えてきたアーチスト高野さん、どこからか聞こえる独り言、こだわり男の高雄さん、最後に自分の仕事も忘れ、ひたすらに廃材とたわむれる天才積木男・渡辺一之くん、それを指導する目出たさ一番・島山、仕事が一番、遊びは二番、どっちなかあやしい・井上の以上十名。こんな僕達だけど、今年もよろしくネ。

粘土とともに二年目

作陶部担当
鎌田善一



「ガラン、ガラン」と攪拌機の音が威勢よく鳴り響いている作業棟。入口のドアを開けるとタンポでボンボンと粘土をたたいている5名の園生が目に入ります。それから土間の方では6名の園生が歯ブラシを使って鑄込み型の掃除をしています。現在、押し型作業と鑄込み作業の同時進行という多忙な日々を送っています。

今年度になってメンバーの半分が入れ替わり、リフレッシュした我が作陶部。今年新しく加わったメンバーは白石和幸君・佐久間晃君・中野芳照君・加藤春枝さん・小谷利枝子さんの5名です。白石君は宇山幸雄さんから「作陶部班長」の大役をバトンタッチされました。只今、みんなの前で大きな声であいさつができるよう頑張っています。佐久間君・中野君・利枝子さんは農耕部からやってきました。農耕部と

は違って一箇所にじっと座っている作業なのでかなり根気が必要ですが、みんなよく手を動かして作業に取り組んでいます。特に利枝子さんは作陶部へのカムバック。昔とった杵柄で千恵子さんとの姉妹コンビで頑張っています。また春枝さんは持ち前の明るさとおしゃべりで、作業中によくみんなを笑わせてくれます。今年度の作陶部は以上の5名と、昨年からメンバー三上利夫君・網代美恵子さん・小谷千恵子さん・新藤恵子さん・松浦路子さん・森井庸江さんの計11名です。中里の家では農園部に次いで2番目の大世帯となりました。そして指導しているのは、今年で3年目を迎えた鎌田(善)と山口の2名の指導員です。

「石の上にも3年」とは言いますが、3年目を迎えた今年、何もわからなかった最初の頃から比べると作業にも慣れてきて色々な工夫ができるようになってきました。そして、焼きあがった陶器もやっと最近、「だいたいいい色が出るようになってきた」と言えるようになりました。「土こね7年」と言われるこの世界ですが、「多くの人に使ってもらえる陶器づくり」めざして頑張ります。

高校生ボランティア来所する

昨年は、高校生の方が相次いでボランティア活動に来所しました。

八月五日には、東京都船形学園より男子高校生五名が納涼会夜店手伝いに訪れて、慣れない手つきながら焼きそば作りなどに奮闘してくれました。

続いて十月二十八日からは、安房南高三年・坂本文代さん(千倉町)が、学業の合い間を縫って毎週土曜の午後と日曜日に訪れ、余暇時間を共に過ごしたり、リース交換やタンス整理などの日課も園生と一緒にこなしてくれました。女子園生は特に、友人のような親しみを感じていたようですが、その後は進路等で忙しくなるそうで、十二月二十四日のクリスマス会を楽しんでいただいております。

また、十一月十八日には、拓大紅陵高三年・茂田明子さん(君津市)が来所、翌十九日午後まで園生と生活を共にしました。その後二十六日にも訪れてくれて、交流を深めていきました。こうした若い方たちが関心を持ってくださる事は大変ありがたく、嬉しい事だと思えます。

何かの機会に、またお会いできるのを楽しみにしてるところです。

編集後記

編集委員

畠山和子

平成二年、初春、「虹」第十五号をお届けいたします。

昨年の夏に始まりました中里の家の増築工事も着々と進み、本年は、中里ファミリィが新たな一歩を踏み出す記念すべき年となることでしょう。

今回の「虹」では、みんなで頑張った去年の秋の運動会や収穫祭の様子を報告させていただきましたが、今年からは、これらの行事も増築・増員のあたらしい波の中、新たな取組みが必要でしょう。我々も気分一新、更に豊かな展開を目指し、日々歩んでゆきたいと思えます。

「房総の逆さ寒」の言葉通り、まだまだ寒い日が続くでしょうが「雪が解ければ、花も咲く！」この精神を抱きしめて、今日もゆくゆくは私「虹子！」

本年も、どうぞよろしくお願いたします。